



カトリック町田教会
町田市中町 3-2-1
電話 042-722-4504
FAX 042-722-4512

いかずちの子

<http://www.machida-catholic.jp/>



真理の霊であるその方が来られると、真理のあらゆる面であなた方を導いてくださる。...その方はわたしに栄光をお与えになる。わたしのものを受けて、あなた方に告知らせて下さるからである。

ヨハネ16.13-14

つぎき
接木される信仰

主任司祭 小池 亮太

長い冬がやっと終わったと思っているうちに、あつという間に桜の花は咲いて、散ってしまいました。

春の始まりのほんのわずかの間、花が開くと共に人の心を浮き立たせ、その散り際には感動すら覚える桜は、ソメイヨシノという品種です。ソメイヨシノは種子では増えないのだそうです。なぜなら、他の品種の桜とは結実するものの、ソメイヨシノ同士では

実を結ぶ可能性がないからです。では、なぜ全国各地にたくさんソメイヨシノが植えられているのでしょうか？それらは、すべて人の手によって接木されたものなのです。したがって、すべてのソメイヨシノは、もとをたどれば数本の原木につながります。これが、ソメイヨシノの花が一斉に咲き、一斉に散る理由の一つです。このように説明されると、

「なるほど」と思います。しかし、よく考えてみると、これは凄いいことです。江戸時代末期に、江戸の染井村（現在の豊島区駒込あたり）で作られた美しい花を咲かせる数本の桜の木の花が接木されて増え、それは成長して花を咲かせて多くの人々を楽しませることになりました。そして、それらの木々からまた枝が取られて接木され、さらに増えやがて日本中に広がって、たくさんの人から愛されるようになったのです。そして、これからもソメイヨシノは接木されてゆき、未来に生きる人々の目を喜ばせることになるでしょう。

このように接木されるのは、ソメイヨシノだけではありません。様々な植物の優良品種や希少品種を交雑させずに増やすため、同時に病気や害虫に強く、丈夫で育てやすくするために、接木をすることは珍しくありません。接木される土台になる方を「台木」、接がれる枝を「穂木」と呼びますが、ここには不思議なことがあります。それは、一つの命に、もう一つの命の一部が接がれると、一つの命になってしまうという事です。しかも、別々だった命が一つになるとしても、一つの命が、もう一方の命を支配してしま

うわけではないのです。例えば、病気に強い「台木」と美しい花を咲かせる「穂木」、効率よく養分を吸い上げる「台木」と美味しい実をたくさん実らせる「穂木」という具合に、二つの命は良いところを生かし合いながら一つの命としてより良いものとなるのです。

この「台木」と「穂木」の関係は、一人ひとりの「命」と「信仰」の関係と重なって見えます。また、キリスト教の信仰は、数本の木から接木されて増えてきたソメイヨシノにも似ています。約二千年前にイスラエル地方で、イエスと共に歩み、イエスの十字架上の死と復活を体験した弟子たちの中に生まれた「信仰」は、彼らから取られて接木されるかのように、多くの人の「命」と一つになることで、その「命」をこの世にある間、美しく輝かせました。そして、

早いもので 10年経ちました...

運営委員会議長 安藤 康弘

早いもので、運営委員会が発足してから10年が経とうとしています。

当時、教会の物事を決めていくシステムについて、もっと透明性があつて、多くの信者の声が反映させられる組織作りを目指し、組織の見直し

その輝きはその人が死に直面しても失われることがなかったのです。どのような時にも決して失せることのない命の輝きを目の当たりにした人々の「命」に「信仰」はまた接木され、その人々に接木された「信仰」は、さらに別の誰かの「命」に接木されてゆきました。そして、イエスの復活を信じる「信仰」は地域や言語、思想や風習の違う人々の「命」に接木されて全世界に広がってゆき、今も人々の「命」を美しく輝かせています。また、イエスの弟子たちの中に生まれた「信仰」は、これから生まれてくる「命」にも接ぎ木されてゆくことだろう...。枝いっぱい淡い紅色の花を咲かせていた桜の木が、今は濃い緑の葉を茂らせて、太陽の光と風を受けて輝いているのを電車の窓から眺めながら、そのようなことを考えていたのです。

実際に、多くの信者の声を反映させる「にはどうしたら良いのでしょうか。従来は、女性信徒によって

構成される地域組織である聖母会が存在しましたが、性別を問わず、全ての信徒がどこかのブロックに所属するという「地域ブロック」に再編をしました。この地域交流の場で、信者一人一人の要望、提案、意見が出てくることを期待したのでです。

そこで出てきた信者の声を活かせる教会委員会の仕組み、あり方が検討されました。

教会委員会の委員はフラットな立場で、教会全体としての視点」を大切に、議論や決議をしてほしいと考え、地域ブロックや活動グループ、教会の業務に携わっているメンバー等の長が直接委員になることを避け、信者全員が教会委員を選考しようと考えた次第です。

自分たちが選んだ委員が教会を代表して、教会の様々なことを議論し、教会運営の舵取りを行っていくわけです。いくら皆さんが選ばれた委員といっても、信者の声を聴き、教会としてのビジョンを信者の皆さんに伝えることは非常に難しいことです。

その実現のため、地域ブロックや活動グループ等との連携、広報による決議の透明性や説明責任にも力を注いだのであります。

こういった手法がベストだ

ったのかという問題については、結果論でしかないので、私自身も評価することはできませんが、当時は教会全体で「より良い教会作り」を目指していたことは事実であり、今もその気持ち自体は変わらないと思っています。

しかしながら、この取り組みは思った以上に大変で、簡単ではなかったことは皆さんもご存じの通りです。

信者さん一人一人いろいろな考えを持っているなかで、信者さん全員が納得のいくものを作っていくのは不可能だと思っています。

でも、それに向かい努力する姿勢は大切だと考えています。

運営委員だけでなく、地域ブロックの連絡員さん、各専門委員会の方々、教会運営を支えている全ての方々、皆さん頑張っておられます。

この度は信者アンケートにも多くの方がご協力いただき大変感謝しています。皆さん一人一人の意見に真摯に向き合い、教会運営に生かしていきたいと思えます。

最後になりましたが、今年度個人的に掲げていきたいテーマがあります。それは「感謝と信頼」です。皆さんにも共感してもらえよう、尽力していきたいと思えます。

イソポ 教皇フランシスコ最初の説教

バチカンのシステーナ礼拝堂で最初の説教をイソポ(池永)

第一朗読「イサヤ2・2-5」
★歩むこと
私の前を歩むに歩みなさい

第二朗読「ペトロ2・4-9」
★築くこと
キリストの花嫁
教会の親石

第三朗読「マタイ16・13-19」
★告白する(信仰)
告白
進む

3つの朗読箇所共通点
歩む 築く 告白

新教会フランシスコ

神 (イサヤ2・5)
ヤコブの家よ主の光の中を歩もう
アブラハムに告げられた第一のこと (ヤコブの祖父) アブラハムの子 イサク
イサクの子 ヤコブ(主からイスラエルの名をせらう)
シヤラ(隣国) エル(神) 国名に!
イスラエルの子 ヨゼフ ユダヤ人の祖

人生(旅路)
正しいものどろろ
希望
立ち止まれば物事は進まない

聖母の祈りによって、聖霊がわたしたちに歩み 築き、十字架につけられたイエス・キリストを告白する 恵みを与えて下さいますように。アーメン。

この福音の後 特別な状況が! (マタイ16・21-28)

あなたはメシア あなたに従います

十字架は 別の方法があなたに従います。

十字架は 主の弟子ではない。

十字架は 司祭 司教 枢機卿 皇教であって

主の祈らぬ人は悪魔に祈る

レオン・プロウ (1844-1917)

時に は つまみかされる

サタン! 引き下がれ! (反対者)

平成25年度 カトリック町田教会 実行体制 (I)

教会業務担当 (運営委員：鈴木 将・富田充裕)

担当	担当業務	業務内容	連絡責任者	構成メンバー
教会業務	庶務	ミサ案内 その他	田澤 三郎	山口 広文・新納 春雄・立木 欣吾・赤瀬 亮一 大木 雅信・幾永 弘・瀧口 裕行・定光 善吾 安藤 康弘・荻津 兆秀・奥村 耕平・橋村 元雄 伊藤 時光・神谷 富雄・小溝 茂雄・遠田 治正 中 永一
		ミサボランティア	水野 貴久子	松本 亮英・三谷 涼子・佐藤 千代子・佐藤 和子 平川 ミエ子
	受付	土曜日受付	山口 静子	木村 洋子・坂井 美鈴・鹿内 容子・高尾 敬子 林 佳香
		日曜日受付 転出転入		越後 やしを・定光 孝子・鈴木節子・田村 ゆり子 林 佳香・蛭町 真理・舟ヶ崎 美英子・山口 静子 横山 真弓
名簿	教会原簿・管財	橋村 元雄 (小池神父)	山田 恒雄 (ソフト開発)	
広報	教会報	雷の子編集	中原 毅志	堤 貞夫・遠山 悦子・遠山 修 池永 廣美・小林 洋子・隠地 妙
		ウェブサイト	小池 神父	丸井 千尋
		週報 月報	高尾 敬子 佐藤 玲子	坂井 美鈴・原 久子・林 佳香 丸井 千尋・笠原 恵
	図書	図書の選択 購入・管理・貸出	横塚 千枝子	丹 雅子・宇治 淳子・横山 浩美・井上 淑子 高橋 檀・石井 節子・酒谷 和子・三上 昌子
売店	聖品販売	守田 紀美江	小池 裕子・舟ヶ崎 美英子・川本 芳實 橋本 愛子・小林 洋子・秦 ゆう子・池永 廣美	

各種対外活動担当 (運営委員：安藤康弘・佐藤 玲子)

担当	業務	業務内容	責任者	担当メンバー
渉外	教区関係	教区一粒会運営委員会	鈴木 節子	多摩南宣教協力体より選出
		教区宣教司牧評議会		
	宣教協力体 関係	多摩南宣教協力体会議 企画小委員会	安藤 康弘	佐藤 玲子
その他	施設利用外部団体 その他	施設利用外部団体	小池 神父	
		その他		

平成25年度 カトリック町田教会 実行体制 (Ⅱ)

典礼委員会

(典礼委員長 兼 運営委員：富樫 和美)

係	担当メンバー
聖歌奉仕グループ	丸茂 いづみ・小吹 順子 吉田 多美子
朗読手配	赤瀬 亮一・佐藤 昭子
奉 納	佐藤 昭子
典礼の花	坂井 美鈴
冠婚葬祭	白井 みさ
香 部 屋	牧野 千佳子
ミサ進行係	伊藤 宏・小林 彰・山口 良樹
聖体奉仕者	島田 和人

運営委員財務委員会

(財務委員長 兼 運営委員：田澤 三郎)

係	業務内容	連絡担当
財源の確保	財政の管理	田澤 三郎
収入管理	郵便 銀行 現金	林 茂 小池 神父 定光 孝子
支出管理	現金出納(支払) 郵便振込 銀行振込	神藤 由紀夫 小池 神父 坂井 剛
資産管理	資産台帳管理等 (リース含む)	神藤 由紀夫
データ管理	会計・決算データ管理	奥村 耕平

施設管理委員会 (施設管理委員長 兼 運営委員：荻津 兆秀)

係	業務内容	責任者	委員
施設管理	中長期大規模改修及び修繕 小規模改修及び修繕・定期修繕 教会建設～建設後の教会施設・ 植栽の維持管理及びメンテナンス	荻津 兆秀	大木 雅信・松村 潔・鈴野 将 池田 克久・幾永 弘・小池神父

生涯養成委員会 (生涯養成委員長 兼 運営委員：前島千佳子)

係	業務内容	責任者	委員
生涯養成	信徒の育成・信仰の理解 靈性を養う	前島千佳子	赤瀬 亮一・加瀬 弘子・寺澤 圭子 林 佳香・岡野 道子・丸井 千尋 水野 貴久子・三谷 涼子・村松 勢津子
教会学校	土曜学校	吉田 光子	保護者をはじめとする皆さんで構成
	日曜学校	三須 真理 坪山 明美	
	中高生会	島田 和人	
たまごの会	未就学児のお話会	小林 由里子	青木 重子・佐藤 千代子・佐藤 玲子 皇 恭子

四旬節の黙想会

生涯養成委員長

前島 千佳子

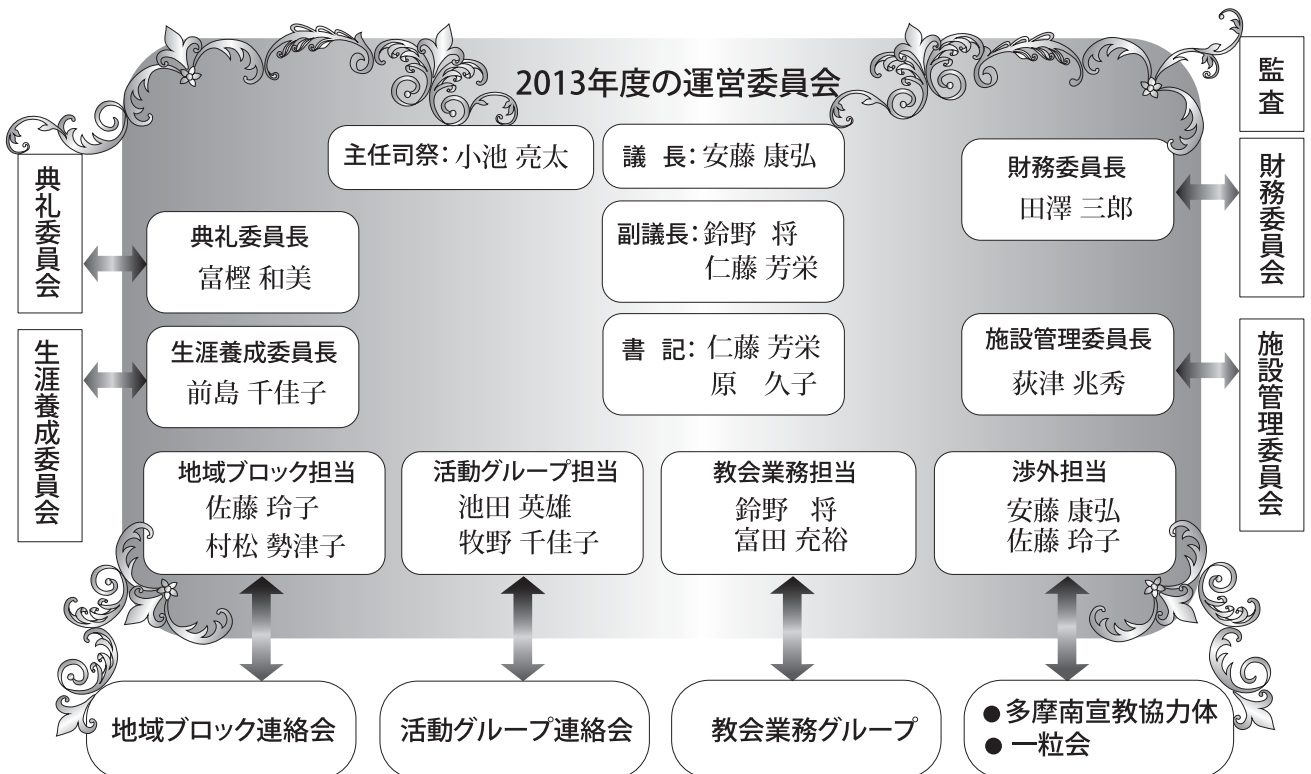
四旬節の黙想会は森司教様
 にお願いました。内容をま
 とめるほどの紙幅がないので、
 短く感想を書くことにします。
 導入部で話された強制収容
 所で死んだユダヤ人女性の言
 葉が気になりました。神さま
 の居場所を奪ってしまったか
 ら、助ける力が神には失われ
 てしまった。憎しみを捨て、
 私たちの心を愛で満たし、神
 さまの居場所をつくること。
 自分の存在を否定された彼
 女が残した言葉です。二年前
 の地震で根こそぎ自分たちの
 居場所を失った東北の人たち
 どちらも大きな不幸に巻き込
 まれた時、神さまにその優先
 を向けがちになります。
 今、東北の人たちは、歩み
 は遅いけれども、一歩一歩復
 興に向けて前に進んでいます。
 被害に遭わなかった私たちは、
 福島から運ばれてくる野菜や
 品物を買うことで、ほんの少
 しだけ協力をさせてもら
 っています。
 今回この原稿を依頼されて
 何を書こうか考えていた時、
 十五年前、エルサレムのホロ
 コースト記念館を訪ねたこと
 を思い出しました。「ヤド・
 バシエム(手と名)」と名づ

けられたその館では、入り口
 を入ると、暗闇の中に数本の
 ろうそくの灯が無数の灯にな
 るように設計されているので
 す。その中を通り抜ける間中、
 たえず、亡くなった子どもた
 ちの名が読み上げられていま
 した。名前はかけがえのない
 命そのもの。そのときの声か
 今も耳に残っています。
 そして私たちにできること
 は、忘れないこと……。神さ
 まの居場所をつくることに通
 じるのではないのでしょうか。
 福島・白河の
 仮設住宅を訪ねて
 災害活動支援グループ 立木 欣吾
 三月三日、教会の信者六名
 で福島県白河市の仮設住宅を
 訪ねた。白河市は福島県の南
 に位置する城下町である。震
 災による家屋等の倒壊はほと
 んど見ることはないが、震災
 当時は崖崩れで十二名の方が
 亡くなっている。
 今回の訪問は、白河教会の
 白河みみずくという傾聴サー
 クルの方と、仮設住宅の方に
 弁当一〇食を届けて、被災
 された方と人形劇を鑑賞しよ
 うという企画であった。
 弁当作りは、揚げ物をした
 り、惣菜を弁当箱に入れたり
 息をつく間もない忙しさ。そ
 の後仮設住宅の集会所で、お
 じさんと白鳥」という人形劇

を観劇。この人形劇は、自立
 することを目的にした施設の
 子供たちが制作。仮設住宅に
 住むおじさんと近くにいる白
 鳥との交流を描いた心温まる
 実話である。人形劇の後は食
 べて、歌って、踊って、被災
 者の方と交流。以前に比べて
 被災者の方の笑顔をたくさん
 もらえたことが嬉しかった。
 私たちも被災者の方と同じ時
 を過ごせる喜びを分かち合い
 ながら笑顔を返すようにした。
 福島は原発問題を抱えてお
 り、被災者を取り巻く環境は
 複雑だ。仮設住宅に住んでも
 薄い壁一枚で隣に気を遣いな
 がらトイレに行く生活。住み
 慣れた故郷の家に戻れる保証
 もなく、放射能をたくさん浴
 びたから癌になるのではない
 かと怯えながらの生活。目の



仮設住宅集会所で被災者の方と賑やかに会食中



前にはとりあえず賠償金があるから、酒やパチンコに溺れる人もいると聞く。家族を失い、祖先から住み慣れた家や田畑を失い、自暴自棄になつてしまつた人たちの気持ちはあまりにも重く哀しい。

被災後二年経過して、仮設住宅から出られず孤立しがちな被災者が望んでいるのは、「私たちが忘れないで」ということだ。遠く離れた町田からのボランティアは行く回数も限られ、多くのことは出来ない。しかし、ボランティアをする人が震災直後に比べ百分の一以下にも減少する中、こうした機会を通して、被災

者の方に「あなたたちのことを忘れてはいない」という気持ちを伝える意味は大きいと思う。帰り道、被災者の方の屈託ない笑顔を思い浮かべながら、これからもこの活動を続けていこうと決意した。

犠牲献金
中高生会

3月3日 12,272円
(ベロニカ苑へ)
4月7日 11,403円
(ベロニカ苑へ)

「雷の子」次号編集会議予定
6月23日(日)09時30分
於会議室



土曜学校卒業お泊まり会
(13年3月9日、10日)

カレー作り、6年生を中心としたゲーム等で楽しみ、卒業生を送り出しました。

ワンポイント聖書



(191)

前島 誠

思い掛けない主任司祭の来訪。

「この家に、マコトという子がいますね。」

直接、顔を見たくて、やってきました

呼んでくれますか？」

母に呼ばれて玄関に出る。当方はこの春、小学校3年に進学したばかりだ。

「マコト、これから毎土曜日、公教要理の勉強に教会に来るんだよ。約束できるかな」

……」

「ハイ！ 行きます」

こうして他の仲間よりも、一段遅まきの教会通いが始まった。

要理教室は、初めて体験する内容で大変面白かった。たしか、八人ぐらいのメンバーだったと記憶する。

その中に、池田君という三人兄妹がいた。薫(四年生)、豊(三年生・自分と同学年)、千鶴子(一年生)。このうち一学年上級の薫とは妙に馬が合った。司祭館の本棚を二人で荒らし回った記憶もある(吉川英治の宮本武蔵は全巻ここから拝借した)。

五年生になって、戦況が急に険しくなり、田舎に疎開するもの、学校が用意した場所へ集団避難するグループとバラバラの状態になる。一クラス分の生徒だけが、それでも在校生として最後まで残された。

そして三月十日の夜空に、敵機大編隊は京浜地区の夜空を真赤に染めて居座った。

(続く)

信者動静

2013年2月～3月

(個人情報のため、削除しています)